

自主的安全性向上・技術・人材ワーキンググループ第7回会合及び第8回会合における
軽水炉安全技術・人材ロードマップに関する指摘事項

1. ロードマップに関する基本的な考え方
 - ロードマップを作成することになったきっかけや、そのとりまとめプロセスにどのような効果を期待するか等、ストーリー性のある説明を示すこと。
2. ロードマップにおける課題の選定方法
 - いきなり評価対象が並べられても意味するところが理解できない。なぜそのような取組を行うのか、ストーリー性のある説明があれば、評価対象の詳細は分からなくても理解できる。
3. ローリングに関係する各要素課題の評価時期等の整理
 - 各要素課題には、短期的に取り組むべきものと、中長期的に取り組むべきものがある。今後のローリングを見据え、各要素課題について1年に1度見直して達成度を評価すべきものとそうでないものを、何らかの形で明示した方が良い。
4. 評価軸を適用する対象
 - 評価軸を適用する対象について、混乱があるように思える。評価軸は技術課題を評価するものなのか、要素技術を評価するものなのか、今後の提案技術を評価するものなのか。
5. 評価軸を用いた重要度評価
 - (A) と (B) の評価軸の下各項目に重複感がある。例えば、(B) ②「軽水炉安全分野における世界的なブレークスルーに繋がりが得る」とあるが、安全性向上の実効性を持つことによってブレークスルーの価値が認められるため、(A) とも非常に関係が深い。もっと重複感を排除した評価軸を作れないか。
 - ロードマップに実効性を持たせるためには、現在挙げられている課題の評価だけでなく、今後個々に提案される技術の評価も行えるような評価軸が作成されることが望ましい。
 - 評価者による要素課題の評価については、「各評価者が1度評価した結果を評価者間で一旦共有した上で再度評価を行うという2段階方式をとることにより、意見の一致が見られるのではないか」、「(B) の評価軸を用いた要素課題の評価については、評価者自身の専門外の要素課題については適切な評価が行えず、ラフな評価になってしまうのではないか」といった指摘もあるが、このような要素課題の評価方法自体も見直すべきではないか。
 - (B) の評価軸の3項目は、それぞれが異なる観点からの評価軸になっているのではないか。人的基盤の維持に関する項目もあれば、中長期的なインパクトの大きさに関する項目もある。(B) を項目毎に分けるべきではないか。(これにより、あわせて、各要素

課題の評価時期の整理にも資することになるのではないか。)

6. その他

- 要素課題の重要度評価の結果については、学会で再精査し、オーソライズされたものにするべき。
- 課題調査票を何らかの形で公開することにより、広範な研究開発への参画が見込めるのではないか。